令和２年１１月１１日

相談室からのお手紙（１１月号）

愛媛県立松山中央高等学校

秋が深まってきた先日の文化の日、中学校の合唱コンクールに行ってきました。初めに校長先生が「賞よりも、その先にあるものを」というお話をしてくださいました。私はそのお話を聞いて、とても感銘を受けました。

合唱コンクールで、子どもたちは何を得たでしょうか。指揮や伴奏、パートリーダーの生徒たちを中心に、知恵を出し合い努力したこと。YouTube を見ながら、クラス全員が家で何度も曲を聴いたこと。歌詞の意味を皆で考えて研究したこと。タイミングを合わせるために、できるまで励まし合って練習したこと。「絶対に優勝しよう！」と支え合って練習を重ねたこと。賞が取れても取れなくても、クラスとして、また個人として、どれほど成長したでしょうか。

素晴らしい合唱を聴きながら、彼らが頑張っていた日々や「その先にあるもの」を思い、感動していました。最後に学年主任の先生が「この時間全てが、きらきら光る宝物のようだ」とお話されました。皆さんも通ってきた道を振り返って感じることがたくさんあると思います。

今、高校生である皆さんの生活でも、皆さんの中で確かに育っているものがあります。周りにある様々なことに、感動したり考えたり、悩んだり喜んだりしながら、人との関わり方を学び、自分を知り、乗り越えることで、自分の可能性が広がっていくのです。そういった様々な経験を通して人は成長していくのでしょうね。どんな経験も、必ず何かの意味があり、糧となります。そして「きらきらと光」りながら「その先」へ、力強くつながっていくのだなと思いました。

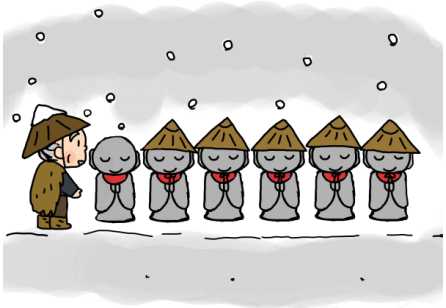
スクールライフアドバイザー　岡本　綾

★スクールライフアドバイザー来校予定日（１２：００～１８：００）
　１１月１７日（火）・１９日（木）・２４日（火）・２６日（木）
　１２月　１日（火）・　３日（木）・　８日（火）・１０日（木）
★メールアドレス
　Kawamin_chuosoudansitu@school.esnet.ed.jp
★生徒の皆さんだけでなく、保護者の皆様も、気軽に利用してください。

本当の幸せって何だろう？

『かさじぞう』

おじいさんは笠を五つ作り、「町へ行って笠を売り、正月の餅を買ってくる。今年はいい年とるべな」と出かけます。おばあさんは「はい、はい。火ぃたいて待ってるから」とおじいさんを送り出します。どうやらあまり期待していない様子です。おじいさんは町では見向きもされず、笠は一つも売れませんでした。



帰りは吹雪です。帰り道で、おじいさんは六人のおじぞうさまに出会います。でも笠は五つです。おじいさんは自分の笠を取って被せることにします。家に帰ったおじいさんは、おばあさんに事情を話しますが、おばあさんは怒りもせず、おじいさんを褒めます。「おじぞうさまにあげてよかったな。そだらば漬物ででも年をとるべな」と。

その夜中、「よういさ、よういさ」という声が聞こえてきます。正月用のお餅や魚、小判などがどっさり詰まった荷物を、笠のお礼にと、おじぞうさまたちが持ってきたのです。それからおじいさんとおばあさんは幸せになりました。

皆さん、このお話はよく知っていると思います。でも、**実はおじいさんとおばあさんは「それから」幸せになったのではなく、二人は「すでに」十分幸せだったのではないかなと思っています。**もちろん暮らしは貧乏です。でも、おじいさんは笠を五つも作ったと自慢したり、一生懸命作った笠が売れなくても、おじぞうさまにプレゼントしたりできるくらいの心の余裕があります。そんなおじいさんのことを、おばあさんも怒ったりしません。**ちょっとしたユーモアを楽しめる心や少しでも前向きになれることを見つける心が幸せに生きることだと思います。そんな暮らしをしていた二人は、すでに十分幸せだったのだろうなと思うのです。**

毎日の生活の中で、ちょっとしたユーモアを持ち、小さな幸せを見つけながら生きていくことができれば、私たちもおじいさんとおばあさんのように心豊かに生きられるかもしれませんね。

出典：『かさじぞう～二人はすでに幸せだったのです』
絵本作家　川端　誠（日本講演新聞１１月２日号掲載）